

大阪府支援教育研究会 60周年記念研究大会

参加された方のアンケートから

この研修会の運営全体について

(参加申し込み、事前準備、当日運営、実施日、その他)

多くの方から、よい大会でした、運営お疲れ様、という言葉いただきました。ありがとうございました。しかし、至らない点や反省すべき点が少なくなかったのも事実です。さまざまなご意見ありがとうございました。今後の運営に活かしていきます。

HPからのメールでの申し込みについて多くの方から良い評価をいただきました。

- ・ホームページで参加人数を確かめることができてよかった。
- ・メールでの参加申し込み、確認のメールなどスムーズで良かった。
- ・メールでの申し込みが迅速な対応で良かった。申し込み数もHPでわかり、利用しやすい。
- ・eメールで申し込みができるようになっていて、便利であった。

しかし、FAX申し込みもできるようにしてほしいという意見もありました。また、申し込みされた方すべてに「参加受付確定」のメールをお送りしたのですが、少し遅れてしまった例、送信ができなかった例もあり、何人かの方にはご心配をおかけしました。参加受付確定についての説明文の書き方・内容へのご指摘もいただきました。今後の申し込み受付の改善に活かしていきます。

- ・メールの申し込みはやりやすくてよかったのですが、1次案内から申し込みできる期間まで時差があり、うっかり申し込みを忘れないかハラハラしました。
- ・研修会への参加申し込みした後の、参加の確定がわかりにくかったです。
- ・自動送信でメールを頂いてから、「参加可否は後ほど…」文が気になっていました。全く何も来ないので！
- ・申し込み後の決定メールが来なかったのが不安でした。
- ・参加申し込みのメールが少しわかりづらかったです。「参加してください」の下に「このメールは確定ではありません」と書いていたのでどちらかわかりませんでした。
- ・個人のアドレスがなく、インターネットでの申し込みが困難でした。まだネットが使えない人のために、配慮を続けてください。

会場の空調について、ご意見が多くありました。全体会会場は冷房が効きすぎて寒かった。逆に分科会の会場の中に暑すぎる部屋があったとの声がありました。全体会会場は資料を見るには照明が暗すぎたという声もありました。分科会の会場配置の案内が少し分かりにくかったという声、時間設定に工夫が必要というような声もありました。

- ・場内が（上映の関係もあると思うが）手元が暗く、資料が十分見られないのが残念。
- ・分科会3に参加させていただきましたが、3つも発表がありました。各テーマ後の休憩タイムの必要性を感じました。または、2つ程度の発表の方が集中力が維持できたかもしれません。
- ・午後からの分科会、1つ50分であれば、2つにしてはどうでしょうか？やはり休憩時間だけはしっかり確保してほしいです。

案内文の表記内容へのご批判もありました。会場へのアクセスについてですが、谷町九丁目駅10番出口という表現がよくないのご指摘を受けました。谷町九丁目駅から地下連絡通路を通り、近鉄大阪上本町駅10番・14番出口からというのが正確な表現です。全体会開始時刻と受付開始時刻の差を明記すべきという声もありました。

午前のみ・午後のみ参加も可能ということが分かりにくいという声もありました。

資料に子どもたちの写真があることについての質問もありましたが、これは講師の方と確認したうえでのこととなります。

現在、大支援研の取り組みは、主にインターネットおよびニュース配信でお知らせさせていただいております。しかし、それだけでは不十分、案内文の配布を各支部・各校で行って、もっと多くの人目に触れるようにしてほしいという声もありました。

- ・とても良い内容なので、できればもっと広く参加を呼び掛けても良いと思う。大阪府立以外は難しいのか？
- ・案内冊子が学校に届いておらず、インターネットで申し込みました。
- ・スムーズな運営でよかったです。ただ、これだけ素敵な研究会ですが、現場にあまり広報されていませんでした。（ポスターやチラシなども見かけなかったのでもっと広く広報されてもいいかと思いました。

最後に、今回の大会で各支部から来られた役員・大会要員の方には本当にお世話になりましたことを、あらためてお礼申し上げます。

- ・午前の受付が混雑しなくて、スムーズでよかったです。準備が大変だったと思います。お疲れさまでした。ありがとうございました。
- ・大規模な大会になるほど事務局の方々の苦労は増大すると思います。本当にご苦勞様です。このご苦勞があるからこそ大会が実行できるのだと思います。

これから、どのような研修会や講演会を行えばよいでしょうか

多くの様々なご意見、ありがとうございました。今後、活かしていけるようつとめます。とくに多くの方からいただいた意見は次のようなものです。

具体的な実践についての報告 アイデア・ノウハウを知りたい。
花熊先生の話をもっと聞きたい。
夏季休業中に研修を行ってほしい。

その他、おもなご意見をしめします。

- ・各種テストについて、K-ABC、WISC-IVなどを利用した支援の研修。
- ・支援学級の日常の教材の紹介。学習面で効果のあった、自作プリント等（事例紹介とお勧めの指導用教材について）
- ・インクルーシブ教育について、一人一人の子どもを理解することの大切さについて。
- ・各学校で、相談窓口の取り組みを知らせてほしい。（窓口があることを知らせる方法・活動内容・保護者との関わり・先生と関わりなど）
- ・療育や訓練についてなど、重度の子ども達の支援を学べるようなものがあれば有り難いです。子どもの行動（重度の子どもで、自傷行為がある、発語なし）にある、心理的背景が知りたい。
- ・実在するアスペルガー、その他の障がいのある方の話。
- ・パネルディスカッションもたまには良いのではないのでしょうか。こんなことを悩んでいますや、これからの支援教育について、事前に聞きたいことを把握できればいいですね。
- ・授業のユニバーサルデザインについて
- ・授業、環境設定、ICT機器の最新の情報について
- ・ICT関連でも実践的な取り組みなど、いくつも取り上げてほしい。
- ・いろんな企業や施設を見学させて頂ければありがたいです。
- ・インクルーシブ教育の理念、現場への移行等
- ・「発達障がい」の人たちが、学校生活で不応をおこし、不登校状況になるケースは、結構な割合になると思います。発達障がいとはいかずとも不登校の児童生徒が、同じような困難さを持ち、苦しい状況にあると感じます。不登校状態になってしまったときのアプローチや具体的な支援プログラムなど学習できたら…と思います。
- ・遊びの中での学びという課題で考えを深めてみたい。
- ・支援学級在籍児童のことをどうクラスの他の子たちに伝えていけばよいか、今取り組みかけているところです。具体例や成功例を教えてください。

- ・午前の講演で社会的スキルが大切だと聞きましたが、SST など行っても、その時は正しい行動ができるのに実際場面になるとできないので難しいです。具体的に実生活でできるようになる指導のポイントや事例など聞きたいです。
- ・中学校のあとの進路について、それに向けて小中で取り組むべきことは。
- ・学校のみでの支援では限界があるので、どういう外部機関と、どのようにつながっているかを、具体的に知りたいし、小・中・高～と縦のつながりの中での支援方法のあり方も今後の課題であると思っている。
- ・普段聴けない（学習できにくい）専門家の方の講演や実践報告を。
- ・重度障がい児が地域の小学校に入学してくるが、教師の人数が保障されず、親からの批判や、他の軽度の障がい児への対応が課題となる現実がある。どう解決するか。
- ・チーム支援の模擬講座
- ・ペアトレーニング講座
- ・より深く連続講座で
- ・「ユニバーサルデザインの授業づくり」「ペアレントトレーニング、ティーチャーズトレーニング」「ピアサポート」「認知行動療法（怒りのコントロールの仕方）」
- ・反抗挑戦性障がいや行動障がいのある人への対応
- ・保護者支援の観点からのテーマ
- ・教師集団、学年集団のまとめ方の研修会。学校や学年集団が安定していると、学級経営ができ、ニーズに応えることができることにつながる。
- ・当事者さんが気持ちや思いを表出し、互いに支援者とのコミュニケーションができ、“居心地良く生活できる”を目指し、グッズを開発、それを使うことで楽に暮らせるために紹介活動に奔走されている兵庫県篠山市（株）「おめめどう」奥平綾子代表取締役を是非。
- ・防災教育に関する分科会などいかがでしょうか。
- ・ICTを利用した授業などについて研修や講演をしてほしい。特にipadなど家電量販店で購入できるものを利用した授業・支援など、8月中旬の研修にいけないので繰り返し開演してほしい。
- ・支援学級の学級経営。学校、学年と支援学級の連携の在り方。
- ・他府県のよい空気を持って実践している事例を持った先生方の話を入れてください。
- ・全体会最後のスライドで示された4つの領域の研修との連携や協働、就学前や乳幼児健診エリアとのより具体的な取り組みをお願いしたい。研究会同士がコラボした研修会の開催。
- ・文科省の支援教育担当の方の話。全国で特色ある取り組み等知りたい。
- ・支援学校、支援学級担任の教師だけでなく、通常学級の担任や担任外、管理職なども花熊先生のようなわかりやすいお話を聴いていただき、研修されるとよいと思います。
- ・アセスメント研修、事例研修

- ・大阪府全体として府のネットワークなどの研修会をしてほしい。
- ・支援教育を受けた児童生徒がその後社会に出て実際にどうなっているのかなど、本人を通して知りたいです。
- ・キャリア教育の推進について、さらに的を絞った研修をしてほしい。
- ・今回のような現場も熟知された大学の先生の講演は非常に勉強になります。専門的見解も参考になりますし、何より講義がとても上手で分かりやすく、その点も尊敬するところです。支援教育を研究されている先生の講演をぜひ続けていただきたいです。
- ・キャリア教育、SSTなど社会性を育てることのヒントや具体的な技（ミニゲームなど）が知りたいです。
- ・教材、教具の開発。実践紹介。ユニバーサルデザインの授業。
- ・LDの子どもに英語をどう教えていくべきか、英語教育に特化した実践例の紹介。
- ・経験年数の浅い教職員が明日使える手立てのみでなく、本日のご講演のように取り組みを打つにあたって“何を大事にするのか”“どういう視点を大事にするのか”を学べる研修があるとよいのではないかと思います。
- ・福祉ネットワークの構築といった視点で、作業所・授産施設・役所の福祉課等、児童・生徒を長期的・包括的に見ている方の話を聞きたい。
- ・発達検査の見方や有効な活用の仕方。
- ・見立て、特性理解、具体的支援などにつながる理論的な話や、学校の実践報告
- ・支援グッズについての展示
- ・保護者支援の観点からのテーマ（保護者にも聴いてもらいたい）
- ・最新の支援方法や色々なアイデア
- ・教育と福祉の連携

※参加された方へ

アンケートに貴重なご意見ありがとうございました

基本的に書かれた文章そのまま転載しましたが、語句など一部の表現を変えさせていただいている場合もあります